

平成 24 年度 第 2 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト  
作成会議（2 月 22 日開催）においての  
特に検討が必要な意見と対応案

意見	事務局見解（対応案）	対応状況
<p><b>&lt; リスト作成の基本方針 &lt; 目的&gt; 被害の考え方 &gt;</b></p> <p>「農林水産業に係る被害」を「農林水産業等各種産業に係る被害」とすべき。船体付着やバラスト水で侵入し、発電所の取水施設等に経済的損害及ぼしている種が多く要注意外来種リストに入っている。</p>	<p>生態系に係る被害を中心に、農林水産業や人の生命・身体に係る被害を及ぼすものを侵略的外来種として選定するものであるが、他の各種産業を排除するものではなく、リストで注意喚起が必要な問題を起こすものについては考慮する。実際にリスト掲載種の選定にあたっては選定の基準「(C)特に問題となる被害」として考慮する。</p>	
<p><b>&lt; リスト作成の基本方針 &lt; 目的&gt; 被害の考え方 &gt;</b></p> <p>「人の生命又は身体に係る被害」の概念を広げたほうが良い。カワヒバリガイが浄水施設で問題を起こす例などは健全な日常生活への被害になる。</p>	<p>本リストで特に注意喚起すべき被害を及ぼすものは、考慮することとし、実際にリスト掲載種の選定にあたっては選定の基準「(C)特に問題となる被害」として考慮する。</p>	
<p><b>&lt; リスト作成の基本方針 &lt; 目的&gt; 被害の考え方 &gt;</b></p> <p>水産現場では病気による大量死が生じるが、文献など客観的事実を待っているうちに手遅れとなる。海外で流行しているもの等、病原体などについては注意喚起としてリストに含めるべき。</p>	<p>病原体については網羅は困難であるが、野生生物の大量死等、生態系に甚大な被害を及ぼすおそれがあるものであって、種と宿主が特定できるものについては、対象とする。</p>	
<p><b>&lt; リスト作成の基本方針 &lt; 基本的な考え方 &gt; &gt;</b></p> <p>利用されている種について、「利用者の理解と協力を得た上で」というのは不要ではないか。利用者に対しては付加情報の追加といった対応がある。</p>	<p>本リストは強制力を有するものではなく、利用の回避・抑制等について利用者の協力を得ながら効果的に対策を進める方向を目指すという主旨。リストの効果的な活用に向けて、利用者の理解と協力を得るための努力は十分に行うこととし、「理解と協力を得ることに努め、」と表現を修正した。</p>	資料 3 - 1、p . 2 修正
<p><b>&lt; リスト作成の基本方針 &lt; 選定の要件&gt; 掲載種選定の対象範囲 &gt;</b></p>	<p>国内に自然分布域があるが、海外から我が国の自然分布域外に導入されて生</p>	資料 3 - 1、p .

我が国のある地域には自然分布域があり在来種だが海外から導入されるものについて、リストの対象となるかどうか記述されていない。	態系に係る被害を及ぼしている生物種も「国内由来の外来種」としてリストの対象とする。なお、「国内由来の外来種」とは「わが国に自然分布域を有しているが、国内や国外からその自然分布域を越えて国内の他地域に導入される生物種」とする。	3 修正
<p>＜リスト作成の基本方針 ＜カテゴリ区分＞対策優先種の考え方＞</p> <p>対策優先種の考え方「対策のとりやすさ」は、「対策の実行可能性」「対策の有効性」等、科学的な表現とすべき。</p>	「対策の実効可能性」と修正した。	資料 3 - 1、p . 6 及び資料 4、p . 4 修正
<p>＜リスト作成の基本方針 ＜カテゴリ区分＞対策優先種の考え方＞</p> <p>対策優先種の考え方の 「なお、特に、定着初期であって根絶が可能であるものは考慮することとする」は、根絶が可能と考えられるものは、明確に「根絶を目指す」とするべき。</p>	ご指摘の箇所は定着初期の段階にあって根絶が可能であるものについては、この点を特に重視して対策優先種として選定すべきとの趣旨であることから、ご指摘を踏まえ、「なお、定着初期であって早期の根絶が可能と考えられるものは、根絶することを目標として対策を促すことが特に重要であることから、対策優先種の選定にあたって重視する」と修正した。	資料 3 - 1、p . 6、資料 4 p . 4 修正
<p>＜リスト作成の基本方針 ＜カテゴリ区分＞＞</p> <p>定着状況について「5 都道府県」とに限定しないほうが良い。実態に沿って総合的に判断したほうが良い。</p>	5 都道府県という具体的な数値にこだわらず、実態に即した総合的判断を行うこととし、「5 都道府県」に係る記述は削除した。	資料 3 - 1、p . 5 修正
<p>＜リスト掲載種選定の試行の一例について＞（ 「リストの掲載種選定手順について」にも関係）</p> <p>（選定の基準のうち）(3)分布・拡大・拡散の可能性の 種散布距離については、動物の場合はあてはまらない。「移動能力が大きい」とかではないのか。</p>	動物と植物では適用する評価の項目（使用する表の様式）が異なることもあり、適切なかたちで検討することとする。ご指摘の部分については、動物の場合には「移動能力が大きい」ことを追記した。	資料 3 - 1、4 該当箇所修正
<p>＜リスト掲載種選定の試行の一例について＞（ 「リスト作成の基本方針」＜選定の基準＞等にも関係）</p>	<p>「(2)被害の重大性」については、「被害の甚大性」とする。</p> <p>「(C) 特段の被害」は「特に問題とな</p>	資料 3 - 1、3 - 2 該当箇所

（選定の基準のうち）（２）被害の重大性と、（Ｃ）特段の被害の項目と項目名を整理すべき。	る被害」とする。	所修正
<p>&lt;リスト掲載種の選定について&gt;</p> <p>選定の作業にあたり資料５（掲載種選定の試行の一例）のバックデータとして、資料６（掲載種の付加情報公表の一例）のようなものあれば良い。</p>	全種について作るのは膨大な作業になる。評価検討種については資料５（平成２４年リスト作成会議第２回）の形で評価を行う。参考文献は極力示し、公表に向けた詳細な付加情報については掲載種について整理することとしたい。	
<p>&lt;リストおよびカテゴリの名称について&gt;</p> <p>「侵略的外来種リスト」という名称については、生態学では侵略的外来種という言葉は一般性のある名詞であるがこれでよいか。</p>	リストの名称については、内容がある程度固まってきた第２回会議で事務局より案を提示し、決定していきたい。	
<p>&lt;リストおよびカテゴリの名称について&gt;</p> <p>対策が必要なものは対策優先種と名前を付けて特別配慮すべきであるが、それ以外のものにも名称がほしい。</p>	特段配慮するものであることを示すために「対策優先種」との名称をつけ、特別に区別するねらいのものである。それ以外のものには名称をつけることによって、かえってその他の掲載種について正しい理解がされなくなる懸念があるため、名称はつけないこととしたい。	